# 2026 年度九州沖縄地区合同シンポジウム
# 沿岸から外洋にかけての大気海洋環境と生態系

**日　　時**: 12 月 11 日（金）10:00 - 17:00
**会　　場**: 長崎県長崎市幸町７−１
長崎スタジアムシティ STADIUM CITY NORTH 4F NUTIC
**コンビーナー**:田中雄大・滝川哲太郎（長大院総合生産）・中村啓彦（鹿大水）
**参加申込**: 参加申込は不要です.　*対面のみ開催
**問合せ先**: takahirot@nagasaki-u.ac.jp （田中雄大）
**共　　催**: 水産海洋学会，日本海洋学会沿岸海洋研究会，日本海洋学会西南支部，長崎大学

挨　　拶：伊藤進一（一般社団法人水産海洋学会長）　10:00-10:05
中村啓彦（日本海洋学会西南支部長）　10:05-10:10
趣旨説明：田中雄大（長大院総合生産）　10:10-10:20

座長：田中雄大（長大院総合生産）

1. 【基調講演】日本・韓国・台湾・中国水域におけるブリ類の最近の回遊生態　10:20-10:50
河邊 玲（長大海セ）・大脇拓洋・冨田将吾（長大総合生産）・
李 政勲（韓国水産科学院）・葉 信明・江 偉全（台湾水産試験所）・
阪倉良孝（長大総合生産）
2. 近年のモジャコ漁期における東シナ海の流れ藻分布と海況　10:50-11:10
堤 英輔・中村啓彦・仁科文子（鹿大水）・加古真一郎（鹿大院理工）
3. 対馬周辺の流動変化が対馬北東海域の渦構造とケンサキイカ輸送に及ぼす影響 11:10-11:30
山口忠則・滝川哲太郎（長大水）・広瀬直毅（九大応力研）
4. 春季東シナ海におけるプランクトン群集の南北変化　11:30-11:50
北島 聡(水産機構資源研)・Fabien Lombard(Sorbonne Université)・
西内 耕・堀井幸子・佐々千由紀・田邉智唯（水産機構資源研）

昼休み　11:50-13:00

座長：滝川哲太郎（長大院総合生産）

5. 【基調講演】沖縄トラフ北部の黒潮の変動特性　13:00-13:30
中村啓彦（鹿大水）
6. 五島海底谷通過流の断面係留観測　13:30-13:50
工藤楓己・滝川哲太郎（長大院総合生産）・千手智晴（九大応力研）
7. 梅雨期・東シナ海における黒潮の海面水温と対流性降水の関係 -経年変動について-
13:50-14:10
鍾 宇倫（鹿大院農林水産）・中村啓彦（鹿大水）
8. 九州西方海域における海洋内部の水温・塩分の長期変化　14:10-14:30
遠藤愛子・田中雄大（長大院総合生産）

休憩　14:30-14:50

座長：中村啓彦（鹿大水）

9. 山陰沖における潮流特性と日周潮陸棚波　14:50-15:10
小濱颯月（長大院総合生産）・森本昭彦（愛大CMES）・遠藤貴洋（九大応力研）・
磯田 豊（北大院水産）・滝川哲太郎（長大院総合生産）

10. 浅海域音波伝播シミュレーションにおける3次元性の影響評価　15:10-15:30
川崎陽暉（九大院総合理工）・大貫陽平・広瀬直毅（九大応力研）

11. 地震による海水中の懸濁物・プランクトン構成の変化と影響　15:30-15:50
山脇信博・筒井英人（長大）・千手智晴（九大応力研）・仲谷幸浩・八木原 寛（鹿大）・
山下裕亮（宮崎公立大）・合澤 格・保科草太・丸山裕豊・木下 宰・森井康宏（長大）

12. 沿岸・縁辺海における表面海水中$CO_2$連続観測システムの構築　15:50-16:10
中野俊也((株)オーシャンソリューションテクノロジー）・荒巻能史・
中岡慎一郎（国環研）・ Gregory N. Nishihara（長大海セ・F-REI）・
田中雄大（長大院総合生産）・西村悦嗣・江良 航・
菅 浩二((株)オーシャンソリューションテクノロジー）

13. 2026年夏季九州西方海域でのかごしま丸-長崎丸連携観測　16:10-16:30
田中雄大・滝川哲太郎・遠藤愛子・八尋有香・本田 藍（長大院総合生産）・
中村啓彦・仁科文子（鹿大水）

休憩　16:30-16:40

【総合討論】　座長：田中雄大・滝川哲太郎（長大院総合生産）・中村啓彦（鹿大水）
16:40-17:00

**開催趣旨**： 近年，大気と海洋を取り巻く環境は急速に変化しており，海面水温の上昇や海洋熱波の頻発，豪雨・台風など極端気象の激甚化に加え，海洋酸性化や貧酸素化など，海洋環境の変化が世界各地で顕在化している．これらの現象は，大気と海洋の相互作用や海洋循環，海洋内部の混合・物質輸送など，さまざまな物理過程と密接に関わるとともに，生態系の構造や生物生産，水産資源の分布・変動にも大きな影響を及ぼしている．九州・沖縄周辺海域は，黒潮や対馬暖流の影響を受ける外洋域から，陸域の影響が強い沿岸域・内湾まで，多様な海洋環境を有する．また，東シナ海，日本海および太平洋を結ぶ接点として，大気海洋相互作用や物質循環，生態系変動を理解する上で重要なフィールドとなっている．さらに，人工衛星，船舶，係留系，自律型観測機器など観測手法の発展により，大気・海洋環境と生態系の変化を高い時空間分解能で捉えることが可能となり，分野横断的な研究が一層進展している．

本シンポジウムでは，「沿岸から外洋にかけての大気海洋環境と生態系」をテーマに，気候変動，大気海洋相互作用，海洋循環・混合過程，物質循環，生態系・水産資源の応答など，幅広い研究成果を共有する．そして，大気・海洋環境変動の実態とその影響への理解を深めるとともに，今後の研究展開や分野横断的な連携のあり方について議論し，九州・沖縄地区における研究交流のさらなる活性化を図ることを目的とする．